

第 68 回リндаウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書

所属機関・部局・職名: 岐阜大学 応用生物学部 研究員

氏名: 岡田 和真

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

全体的に、どのノーベル賞受賞者も現在進行形で研究を精力的に続けているなと感じました。ノーベル賞が終わりではなく、むしろ賞自体は研究の途中でただ得られたもので、彼らが解明したい事柄が最重要項目という印象でした。したがって、講演も自身の研究を、過去から未来までの流れに沿って紹介するものが多かったと思います。賞自体は全く目標ではなく、自分自身が何に興味をもっているのか、何を解明したいのか、当たり前のことかもしれませんが、これらの姿勢を改めて学ぶことができました。また、特に Ignarro 先生は自身の Nitric Oxide (NO) の生体内における機能の研究を、とてもウィットに富んだプレゼンテーションで紹介してくださり、会場も大盛り上がりでした。四日目にあった大隅先生によるオートファジーに関する講演では、いかに当時は注目されていない領域だったか、一つの領域として成り立つまでにかかる時間の長さなどが印象的でした。今は注目されていなくとも、根強く研究を続けることの大切さを学びました。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカージョン等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

講演とは異なり、アゴラトークはノーベル賞受賞者が自身の研究やキャリアについて軽く話し、それに対して聴衆から質問するスタイル、オープンエクステンジは特に話すことなどは決められていなく、会議室のような部屋でノーベル賞受賞者と若手研究者で自由にディスカッションを行うというスタイルでした。講演では質問の時間が無いため、我々も参加することが可能なこれらの企画の方がノーベル賞受賞者との時間を積極的に楽しめたと思います。それだけに、研究内容のことだけではなく、キャリア形成やサイエンスに対する姿勢など幅広い会話が繰り広げられました。アゴラトークでは、特に Shechtman 先生の講演が印象的でした。昆虫が持つ色の美しさから、サイエンスの始まり、好奇心の大事さを伝える内容で、我々がサイエンスを志した時の、純粋な面白さを改めて感じられるトークでした。また、アゴラトークおよびオープンエクステンジ共に最も印象的だったのは Agre 先生でした。受賞内容はアクアポリン受容体の発見であるものの、先生は当時からグローバルヘルスへの貢献が研究の根底にあり、今もアフリカなどを訪れる活動を続けられています。話しぶりは穏やかでありつつも、我々若手研究者との交流を真剣に考え、どの質問にも真摯に答えてくださる姿勢には感動しました。また私自身も公衆衛生への貢献を研究の地盤に考えたい

と考えていたことから、現在の公衆衛生の研究環境における問題点について質問をさせていただき、貴重なサジェッションをいただきました。曖昧な方法ではなく、具体的に解決のために動いて研究を進めている国・研究者を教えていただけるなど、今後の研究活動において重要な智慧を得ることができました。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

似たような世代の研究者が多いことから、悩みも似ていて話してお互いに共感を得る経験が多かったです。また日本と違い、インドから参加した若手研究者の一人からは、この会議に参加できるのが約5%だけという話を聞きました。その背景には各国の総人口数も関係していることが考えられるものの、日本との倍率の違いには驚かされました。日本ではそこまで倍率が低いことを、JSPSの推薦が得られる可能性が高いと考えることができるものの、こういった会議に参加しようとする熱意の差を感じずにはられませんでした。日本にいと、度々海外に行き学会や会議に参加する、または留学をすることが何か特別なことのように感じるのに対し、世界ではごく普通の考えであるということを改めて認識することができました。今後も海外への活動を積極的に行なっていきたいと思います。

様々なセッションやパーティが国や企業の支援によって行われていました。印象的だったものの一つに、International Get Together という中国の支援によるパーティーでした。中国一色のパーティーで、途中には壇上でのノーベル受賞者も交えた最近の中国研究の勢いに関するセッション（二、三人が話す意見交換みたいなもの？）が行われていました。その内容が中国の研究を褒め称えるものであったことは、同じアジアの国であり、かつ研究の勢いにおいて既に追い抜かれた日本から来ているものとして複雑な心境でした。悔しくもあり、負けてられないとも感じた心情を胸に刻みたいと思います。

参加者が各国の衣装を着て参加することが可能なバーバリアンイブニングでは、日本から持参した浴衣と下駄を身につけて参加しました。浴衣の柄もさることながら、木でできつつ二本の足で立っている下駄がかなりのインパクトだったのか大変好評でした。和服の良さを身につけて感じたことは貴重な経験でした。今後の海外活動にも活かしたいと思います。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

参加された全員が本当に優秀な方々で、今後の研究を引っ張っていくような人たちだったことが印象的でした。そのような優れた才能を持つ人々と知り合いになれたことは、自分が今後研究を行なっていく上で非常に重要なことになると考えています。またこのリンダウ会議に参加しようとする方々ははじめから交流しようとして来ていることもあって、スムーズに打ち解けることができました。特に、会議が本格的に始まる前に皆で集まる機会を参加者の一人の方がセッティングしてくださったのは大変よかったと思います。お互いの顔を知った上で参加できるのは、途中の休憩時間などに話かけることがとても簡単になって助かりました。

またキャリアや研究の強みについて話せたことは、今後の自分の方向性を決める上で大変になりました。皆それぞれに家族の事情や自分の求める研究像があり、それらのバランスを取りながら研究者としての人生を選択していることが印象的でした。自分がいま分岐点にいる事情も合わさって、皆さんの選択に関する話を聞いたことはキャリアの方向性を決める上で重要な経験となりました。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

・アゴラトーク

理由：研究内容の話だけでなく、各受賞者が考える研究とは、キャリアとは、といった話が聞けたから。またそれに対して聴衆からの質問が可能であったため。

・オープンエクステンジ

理由：最もノーベル賞受賞者の生の話を聞けたと感じたため。またノーベル賞受賞者との距離感が一番近いプログラムであったことも理由である。

・ポスターセッション

理由：若手研究者の研究内容を近くで聞けたため。どの研究も素晴らしいものであった。マスタークラスでも若手研究者による研究発表を聞けるものの、座長をするノーベル賞受賞者によって当たり外れがあるのが難点である。Beutler 先生が座長をしたマスタークラスに参加したものの、ひたすら発表中に「so」を使うなという指摘ばかりで興ざめだった。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット〔具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。〕

7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

後輩や周りの若手研究者にも、リンダウ会議への参加を勧めたいと思います。そのような行為を通して、日本から海外へ飛び出す活動の促進に貢献したいと思います。

8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

貴重な機会であるのは間違いありません。またそれぞれの現在の立場によって、ためになること、何かきっかけになることが必ずあります。各年によって募集分野が異なるため、タイミングよく自分の分野と重なった時には積極的に申請されることをお勧めします。